

## 2025 年度・プロジェクト研究 募集要項

### 「言葉」と社会

— 一個人と社会、「言葉」はだれのもの? —

原田直枝

(研究室 Q6010)

## 1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

**目的** 社会の課題や関心事を表す、しょっちゅう見たり聞いたりする「言葉」に注意！その「言葉」の字面だけでは見えにくい大事な（本当は知ることが必要な）情報がある。それを探ることを通して自分で社会の課題や関心事を読み解き、「今/これから」の策を立てていく力をつけよう。

**着眼** コロナ禍の中で盛んに言われた「新しい生活様式<sup>ライフスタイル</sup>」「人と人との距離<sup>ディスタンス</sup>」……。もっと前から言われ続けている「地方創生（「創」の魔力にご用心!）」「多様性」…。世の中のさまざまな課題や関心事は、ワンフレーズ（短い言葉）でコンパクトに示されることが多いですね。そういった「言葉」を見聞きして知っている、それで「世の中そんなもの」と暮らしてしまいがちですが、さてその「言葉」、いったいどんな情報が詰まっているのでしょうか？どんなルーツや背景があって使われているのでしょうか？近頃は消費社会が進んで、個人に属するはずの「言葉」までが消費され、消費の対象が個人の部分にまで及んできています。「言葉」の中身と周辺に注意したらどんな視界が開けてくるのでしょうか？

「名を正す」。世の中を動かす＝為政<sup>いせい</sup>のポイントとなる姿勢だと、中国古代の思想家孔子の言です。「名」とは言葉。社会の出来事や課題を語る「言葉」の周辺に注意深く目を配れば、そのワンフレーズが伝えきれていない諸情報がゴロゴロころがっています。また、そのワンフレーズが表立つせいで盲点になってしまう情報もあります。それらに目を向け、自分の頭で情報（＝「言葉」の海）を吟味し、納得した判断をもとに自分なりの策を立てる主体であることは、これから自律的に生きていく基盤となるでしょう。

**内容** このプロジェクト研究は、現代社会の諸問題を考えるのに、その事柄の<sup>ルーツ</sup>も背景、推移など時間的視野を取り入れることで、さまざまなヒントを得たり、考察の道筋を得たりすることをめざします。同時に、人それぞれの立ち位置が、物事の見え方や結論の仕方を左右することを理解して、その複雑さ・多様性をプラスに転じる考え方を身につけます。

**卒論** こうした学びをもとに、各自が気になり、かつ、それが自分/社会の今/これからにとって何を意味するのか考えたいという強い熱意を持てるトピック（言葉、話題）について上述のような取組みを実践し、卒業論文を作成します。

## 2. プロジェクト研究の進め方

プロジェクト研究Ⅰ 文献への取組み方法を学ぶ

社会の諸相を表す「言葉」をリンクさせ、背景を探る（共通文献取組み→5）

各自の関心（問題意識）の所在を探り、文献検索の準備をする

プロジェクト研究Ⅱ・Ⅲ 自分の関心（問題意識）を展開したい方向性をつかむ

社会の諸相を表す「言葉」をリンクさせ、背景を探る（共通文献取組み）

各自の卒論研究テーマと計画を探る

プロジェクト研究Ⅳ・Ⅴ 卒業論文のテーマと構想をまとめる

### 3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

このプロジェクト研究を希望する場合には、3年次 Q2 に開講する「総合演習 B」(担当:原田)を履修することが望ましい(やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談してください)。また、3コースのいずれでも構わないが、本プロジェクト研究は文明論的視野での思考を重視する。特に、原田担当「東洋と文明」で行なう資料収集・考察の方法はこのプロジェクト研究に直結するので、履修が望ましい。ジャンルを問わず学科科目一つ一つを大切に受講していることが望ましい。

### 4. プロジェクト研究開始までの準備

日本を立ち位置として、現代の諸相を時間的・空間的視野で捉える思考に関心を持つこと。ネットもよいが、新聞記事やTVの報道を1日に1度はチェックして、疑問やひっかかりの持てる材料(正/負どちらでも構わない。「これは何だろう?」「いったい何の意味があるの?価値があるの?」「どうしてこんなことを言う(書く)の?」はたまた「これは面白い、もっと広めたい、もっと知りたい」など)を確保しておくこと。別途、3年次開始までに取り組んでおいてほしい文献を提示する予定。

### 5. その他

授業では、「言葉」と向き合うのに必要なことを学び、誰もが見たり聞いたりする日常的な幾つかのトピック(言葉)について、文献を選んで読み、「そもそも」や「もともと」に関心を向けることを重視します。そもそも何?何を伝えている?/どう理解されている?/別の見方がある?と少しアマノジャクに問いかけ(例えば、コロナが落ち着いてまた「観光日本」が提唱されてます。日本は“おもてなし”を自慢にして、“おもてなし”に力を入れています、さて“もてなし”が単なる善意から義務に転じるってどう?また、「イベントや行列でお疲れ」になる人が多いけれど、「観光」の意味は深い、「オフ」は誰のもの、誰のため?など)、なんとなく当たり前みたいに思えて深くは留意しないような、言葉の周辺の情報を掘り広げていき、新たに位置づける力をつけていきます。

共通文献取組み例(2024、2023): 古田徹也『いつもの言葉を哲学する』にもとづき、日常よく出回る「言葉」から社会の諸相とその背景、これからを考える:①本来は生産的な「批評」について②カタカナ語から日本社会の現在と今後を考える③「新しい生活様式」「ソーシャル・ディスタンス」などコロナ禍で出現した各種フレーズから「世の中で出回る「言葉」の、個人のライフスタイルへの関わり度」を考える、など。「自粛を解禁」、「専門家の意見」や、「発言の撤回」「ファスト○○」に関する検討も。

卒論テーマ例: 21世紀版「本との出会い」/ファストファッションの功罪/バンクシー現象 etc.

### 6. 選考方法・日程

面接と、予備登録時に提出する「志望動機」(所定用紙)により選考を行ないます。9/19(木)~10/4(金)に3回開催するプロジェクト・アワー(開催方法は別途掲示)のうち1回に参加していることが望ましい。